

プレスリリース

猪熊弦一郎展 壁画の仕事

Genichiro Inokuma—Murals

2013年4月13(土) - 6月23日(日)

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

展覧会に関するお問い合わせ及び資料のご請求先：
丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
公益財団法人ミモカ美術振興財団
担当＝古野華奈子

〒763-0022 香川県丸亀市浜町 80-1
tel:0877-24-7755
fax:0877-24-7766
<http://www.mimoca.org/ja/press/>

【展覧会概要】

展覧会名： 猪熊弦一郎展 壁画の仕事
Genichiro Inokuma—Murals
会場： 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 展示室C
会期： 2013年4月13日(土)－6月23日(日) (72日間) 会期中無休
開館時間： 10時－18時 (最終入館17時30分)
*4月13日(土)、20日(土)は21:00まで開館 (入館は20:30まで)
主催： 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、公益財団法人ミモカ美術振興財団
観覧料金： 一般950円 [760円] 大学生650円 [520円]
*同時開催企画展「MIMOCA'S EYE vol.3 フランシス・アップリチャード展 ポテト
ポエム」及び常設展観覧料を含む
* [] 内は前売り及び20名以上の団体料金
高校生以下または18歳未満・丸亀市内在住の65歳以上・各種障害者手帳お持ちの方
は無料

前売券販売場所：

[丸亀] あーとらんどギャラリー (0877-24-0927) オークラホテル丸亀 (23-2222) おみやげ
SHOP ミュー (22-2400) きままや (22-9361)

【展覧会趣旨】

2011年の夏に、建物解体現場で発見された、猪熊弦一郎(1902-1993)の壁画《都市流動》(1969年)をご紹介します。展覧会です。

建物は同年1月に営業を終了した京都の老舗ホテル(旧ホテルフジタ京都)で、猪熊の壁画は1970年の開業当初からラウンジに設置されていましたが、1982年にホテルの改装で壁画の前に新たな壁が立てられたため、所在が分からなくなっていたのです。建物の取り壊しが発表されたことで、ホテルの所有者に匿名の電話があり、おかげで壁画は無事に解体現場から取り出されました。その顛末は新聞等で取り上げられ、「救われた壁画」として話題になりました。

壁画は、解体時に所有者であった積水ハウス株式会社より、丸亀市に寄贈され、2011年11月23日、当美術館の開館20周年記念イベントにて、発見時のままの痛んだ姿で1日だけ公開されました。本展では、その後、修復されて本来の姿を取り戻したこの壁画を、初公開いたします。

あわせて本展では、猪熊が手がけた他の壁画も写真パネル等でご紹介いたします。「絵画は独占するものでなくより多くの人々を喜ばせ、みちびくもの、多くの人々のためになるべきものだ」(1953年1月20日大分合同新聞 p2「近代美について」猪熊弦一郎(談))との考えのもと、壁画の仕事を多数手がけてきた猪熊のパブリックアートをご堪能ください。

※出品作品例の広報用画像をご希望の際は、データにてお送りいたしますので、当館ウェブ上のプレス用ページ(<http://www.mimoca.org/ja/press/>)よりお申し込みください。なお、著作権の都合上、画像をご掲載の際は必ずクレジット等のご記載もあわせてお願い申し上げます。

[トピックス]

1. 発見された壁画《都市流動》(1969年)の本来の姿が明らかに！

壁画《都市流動》は、高さ約3m、幅約1.5mのクロムメッキ鉄板を横に10枚連ねた仕様で、つなぎ合わせると全長約15mにもなる大作です。鉄板1枚に付き直径2cmの円が300～400個ほど開けられており、背後から光を当てると、裏側に接着された色つきのアクリル板を通して、カラフルな線描の幾何学模様が浮かび上がるという仕組みで、デザインのみならず、使用した素材や技術も、猪熊の画業のなかでは他に類をみない珍しい作品となっています。

発見された年に1日だけ公開された際には、鉄板のゆがみやサビ、建築資材の付着など、痛んだままでの展示となりました。本展では、これらの傷みを修復し、背後の光源も入れて、本来の姿に近づけて展示いたします。

【壁画《都市流動》について】

旧ホテルフジタ京都は、日本万国博覧会（大阪万博）の開幕にあわせて建てられたホテルです。設計を担当した建築家、吉村順三の依頼を受けて、猪熊がこの壁画をデザインしました。光沢のある金属をベースに、プラスチックの人工的な色を光の点で浮かび上がらせた表現は、工業的な様相を呈しており、高度経済成長を成し遂げ万博に沸く日本や、アポロ11号の月面着陸による宇宙への関心の高まりなど、当時の世相を反映していると言えるでしょう。

タイトル：《都市流動》

制作年：1969年

作家名：猪熊弦一郎（1902－1993年、香川県出身）

材質：スチール（クロムメッキ）、アクリル、他

サイズ：高さ2.9m×幅1.47mのパーツ10枚の組み合わせ（全長14.7m）

所蔵：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

寄贈者：積水ハウス株式会社

2. 猪熊による数々の壁画の仕事をご紹介します

JR東日本上野駅の《自由》（1951年）や香川県庁舎東館の《和敬清寂》（1958年）など、猪熊弦一郎は様々な壁画を制作しています。これらは、人々の生活の中に美を取り入れたいという猪熊の考えがパブリックアートとしてあらわれたものであり、彼の画業のなかで重要な仕事の一つとなっています。本展では、主なものを写真パネルや図案、原画等でご紹介します。

[関連プログラム]

キュレーターズ・トーク

本展担当キュレーター（古野華奈子）が展示室にて展覧会の見どころをお話します。

日時：会期中の日曜日 14:30－

参加料：無料（ただし展覧会チケットが必要です）

申込：不要（美術館1階受付前にお集まりください）

【作家略歴】 猪熊弦一郎 / Genichiro Inokuma

- 1902 香川県高松市生まれ。少年時代を香川県で過ごす。
- 1921 旧制丸亀中学校（現 香川県立丸亀高等学校）を卒業。
- 1922 東京美術学校（現 東京藝術大学）西洋画科に進学。藤島武二教室で学ぶ。
- 1926 帝国美術院第 7 回美術展覧会に初入選。以後、第 10 回、第 14 回で特選となるなど、1934 年まで主に帝展を舞台に活躍する。
- 1936 志を同じくする伊勢正義、内田巖、小磯良平、佐藤敬、三田康、中西利雄、脇田和、鈴木誠と新制作派協会（現 新制作協会）を結成。以後、発表の舞台とする。
- 1938 フランスに遊学（1940 年まで）。アンリ・マティスに学ぶ。
- 1949 慶応義塾大学学生ホールに壁画《デモクラシー》を制作。名古屋丸栄ホテル大ホール壁画《愛の誕生》の制作を始める。
- 1950 三越の包装紙「華ひらく」をデザインする。
慶應義塾大学壁画《デモクラシー》及び名古屋丸栄ホテル壁画《愛の誕生》に対し第二回毎日美術賞を贈られる。
- 1951 国鉄上野駅中央ホールの大壁画《自由》を制作。
- 1953 国鉄東京駅八重洲口に壁彫《宇宙》を新制作協会の彫刻部会員と共同制作。
- 1955 再度パリでの勉強を目指し日本を発つが、途中滞在したニューヨークに惹かれそのまま留まることとし、約 20 年間同地で制作する。
- 1958 香川県庁舎の陶画《和敬清寂》、ニューヨーク高島屋の壁画、日本航空ニューヨーク支店の室内装飾（金属による噴水）を制作。
- 1964 朝日生命新宿本社ビルにガラスモザイク壁画《愉快的散歩》を制作。
- 1966 帝国劇場スタンドグラス《律動》、彫刻的オブジェ《熨斗》及びライティングのデザインを行う。大阪のアメリカナビルディングに二つのオブジェ《噴水彫刻》《壁画彫刻》を制作。
- 1967 名古屋の名鉄バスターミナルビルにエントランスレリーフを制作。
- 1969 ホテルフジタ京都ラウンジ壁画《都市流動》を制作。
- 1971 東京會館本館ロビーのモザイク壁画《都市・窓》及び電灯装飾《金環》を制作。
- 1973 日本に一時帰国中、病に倒れる。
- 1975 ニューヨークのアトリエを引き払う。その後、冬の間をハワイで、その他の季節は東京で制作するようになる。
- 1979 彫刻の森美術館にモザイクによる大壁画《音の世界》を制作。
- 1987 香川県立丸亀高等学校図書館壁画《風車と太陽》を制作。
- 1988 香川県民ホール壁画《21 世紀に贈るメッセージ》、緞帳《太陽と月の住むところ》を制作。
営団地下鉄半蔵門線三越前駅のホーム壁画《創造の街》を制作。
- 1989 丸亀市へ作品 1000 点を寄贈。
- 1991 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館のゲートプラザ壁画《創造の広場》、および丸亀市立図書館のシルクスクリーン壁画を制作。
丸亀市猪熊弦一郎現代美術館が開館する。
日本アイ・ビー・エム株式会社幕張事業所の壁画《極点》を制作。
- 1992 所有するすべての作品などを丸亀市に寄贈する趣旨の文書提出。
以降、順次丸亀市猪熊弦一郎現代美術館に搬入。
- 1993 川崎市役所第 3 庁舎の壁画《ロボット誕生》を制作。
東京にて逝去。90 歳。

[展覧会等のお知らせ]

■同時開催展

企画展 MIMOCA'S EYE vol.3 フランシス・アップリチャード展 ポテトポエム (展示室B)

常設展 猪熊弦一郎展 (展示室A)

会期：2013年4月13日(土)～6月30日(日) 会期中無休

■次回開催企画展

大竹伸朗展 (仮称)

会期：2013年7月13日(土)～11月4日(月・祝) 会期中無休